

# 昭和三陸地震からの復旧を目指し 土木部が発足



昭和8年3月8日に発生した昭和三陸地震によって引き起こされた大災害  
(三陸地区に未曾有の大津波。死傷者466人)からの復旧・復興に対応するため、  
同年9月に内務部土木課は、監理課、道路課、河港課の3課からなる土木部に昇格しました。

[昭和①] 昭和8年—40年  
(1933) (1965)

昭和			平成			令和
①	②	③	①	②	③	



昭和三陸地震 昭和8年(1933)

昭和8年3月3日午前2時30分ごろ、震度5の地震が発生。地震後約30分から1時間で三陸沿岸に津波が襲来。死傷者466名、被害家屋2,284戸(県内)の甚大な被害が発生しました。



アイオン台風 昭和23年(1948)

築館観測所において、最大1時間雨量109.4mm、4時間最大雨量は308.7mmと従来の東北地方の記録を破る豪雨となり、鳴瀬川、北上川両水系を中心に甚大な水害が発生しました。



仙台空港開港 昭和32年(1957)

1957年「矢ノ目飛行場」が「仙台飛行場」として開港し、全日本空輸(株)(当時の日本ヘリコプター輸送(株))の仙台—東京間の定期便が運航を開始しました。



花山ダム完成 昭和33年(1958)

カスリン台風やアイオン台風が流域に甚大な被害を及ぼしたことから、迫川総合開発事業の一環として計画された宮城県が手掛けた最初の重力式コンクリートダムです。



仙塩工業用水道給水開始 昭和36年(1961)

昭和36年11月に施設能力25,000m<sup>3</sup>/日で一部供給を開始、その後仙台港開港等により工業導入も急速に進展し、本工業用水道は地域開発に大きく寄与しました。

[昭和①] 昭和8年—40年

昭和8年	3月	昭和三陸地震
8年	9月	宮城県土木部が内務部から昇格
20年	7月	仙台空襲
22年	9月	カスリン台風
23年	9月	アイオン台風
27年	10月	宮城野原総合運動場完成
32年	4月	仙台空港開港
33年	1月	花山ダム完成
35年	5月	チリ地震
36年	11月	仙塩工業用水道給水開始
37年	11月	蔵王エコーライン開通
37年	3月	栗駒ダム完成
37年	3月	大倉ダム完成



蔵王エコーライン開通 昭和37年(1962)

宮城県白石市と山形県上市を結ぶ県道12号白石上山線のうち奥羽山脈・蔵王連峰をまたぐ区間が有料道路「蔵王エコーライン」として開通しました。



大倉ダム完成 昭和37年(1962)

カスリン台風やアイオン台風、昭和25年8月の出水と、相次ぐ大洪水に対応するため、広瀬川上流大倉川に計画されたダブルアーチ式コンクリートダムです。